


難易度
初中級

技術者に響く！特許情報の活用術

～研究開発部門に喜ばれる情報提供のための3ステップ～

講師	塩谷 綱正 氏	株式会社イーパテント・アクティス 代表取締役社長	
日時	2025年6月10日(火) 13:30～16:30		

研究開発活動における特許情報の有益性は、古くから語られてきました。しかしその具体的な方法論は乏しく、多くの場合は組織ノウハウ、個人のセンスに頼る部分が多いのが実情です。これでは成功の再現性が低く、施策としてスケールすることが非常に難しいものとなってしまいます。

この講座では、研究開発部門における特許情報活用を推進してきた講師から、実践的で具体的なノウハウを学びます。受講により、単なる参考どまりではない、役に立つ情報提供を行えるようになります。

<対象>

- 知的財産部門などにおいて、技術者への特許情報提供に取り組みたいと考える方
- 以前から技術者へ特許情報を提供しているものの、役に立っている実感を得られない方

【解説内容】(予定)

●研究開発業務における特許情報活用とは

- －活用が技術者のセンス頼りになりがちな理由
- －活用方法は、開発プロセスのステージによって変わる
- －ステージを、狙う、閃く、通す、に分解して考える

●「狙う」編 ～良い企画を、早く～

- －不確実性に伴う堂々巡りを特許情報で止める
- －フレームワークを穴埋め問題にしない
- －バリュープロポジションを特許情報で磨き込む

●「閃く」編 ～価値がある、良いアイデアを～

- －技術者が悩むのは、解決すべき課題の特定
- －トレードオフ思考で、他社の戦略を炙り出す
- －良いアイデア発想もトレードオフ思考で

●「通す」編 ～良いテーマを、承認へ持ち込め～

- －筋の良いテーマであっても、上位への提案は難しいもの
- －必要リソースの要求を特許情報で根拠づける
- －テーマ提案時点で出口戦略を論理的に語る

●IPランドスケープを研究開発部門で行なうメリット

- －いきなり「経営に資するIPランドスケープ」は無茶
- －まずは接点のある研究開発部門に資することから
- －IPランドスケープとは、社内コンサルティング

●Tips

テキストはPDFで共有させていただきます




LIVE



ライブ配信だからその場で講師に質問可能 &
アーカイブ配信も実施(各講義翌日から2週間)

- ▶聞き逃しても安心!期間内はなんどでも。
- ▶再生速度を変更可能!

受講料	会員10,200円 一般12,000円(※税込)	
申込	「発明推進協会 研修」で検索 http://www.jiii.or.jp/kenshu/chizaikenshu_tanki.html	
お問合せ先	(一社)発明推進協会 研修チーム TEL 03 3502 5439	

申込みページ
QRコード